

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども支援センターあすなる		
○保護者評価実施期間	2026年1月24日		2026年2月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年1月24日		2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	国の基準より職員を多く配置し、ひとり一人の子どもに手厚く関わる事ができている。また毎日通園の子ども達が多く、生活スキル(食事、排泄、着脱など)が身に付きやすい。	個別療育であるポーターシッププログラムを通じて子ども達の成長を保護者と確認し合うとともに、マカトンを通じてコミュニケーション能力向上を支援している。	ポーターシッププログラム及びマカトンの研修未受講職員に研修を受講させる。
2	令和6年度から延長加算制度が対象となり、令和7年度より延長保育担当職員を配置できる見通しとなったため、理由条件と回数制限を撤廃し、保護者の希望があれば、9:00～17:00までの延長保育を実施することとした。	カレンダーアプリ「TimeTree」を使用し、1日ごとの利用児童と担当保育士の予定を管理するとともに、成長療育支援システム「Hug」を使用し請求事務を効率化した。	9:00～の延長保育に対応するため、早出の勤務帯を新設し、職員の負担を軽減化する。
3	療育相談やつくしんぼ(保護者交流会)、あすなるの集い、就学のための勉強会を通じ、保護者に寄り添った相談・助言を行っている。	「就学のための勉強会」の対象を、昨年度より、こども支援センターあすなる利用保護者から生駒市内の事業所利用保護者に拡大した。	保護者からの事業所評価等のアンケートを分析し保護者のニーズに添った相談・援助を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自家用車で子どもを送迎する保護者が増えたため、法人内の駐車場が過密状態になることがあった。	近年、自家用車保有率や女性の普通免許取得率が増加したことに対し、法人敷地内駐車台数が対応できていない。	クラス開始・終了時間に15分の時間差を設けるとともに、敷地内他施設と駐車場の時間差利用を行うこととする。
2	施設が老朽化し、ハード面の経年劣化が進行している。	設備・備品・調度品・物品等に故障や破損が生じることがある。	故障や破損が生じることにより、当初予算や補正予算の中から、修理・修繕(応急含)を適時適切に行っている。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども支援センターあすなるあずさ		
○保護者評価実施期間	2026年1月24日		2026年2月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年1月24日		2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	国の基準より職員を多く配置し、ひとり一人の子どもに手厚く関わることができている。また毎日通園の子ども達が多く、生活スキル(食事、排泄、着脱など)が身に付きやすい。	個別療育であるポーターシッププログラムを通じて子ども達の成長を保護者と確認し合うとともに、マカトンを通じてコミュニケーション能力向上を支援している。	ポーターシッププログラム及びマカトンの研修未受講職員に研修を受講させる。
2	令和6年度から延長加算制度が対象となり、令和7年度より延長保育担当職員を配置できる見通しとなったため、理由条件と回数制限を撤廃し、保護者の希望があれば、9:00～17:00までの延長保育を実施することとした。	カレンダーアプリ「TimeTree」を使用し、1日ごとの利用児童と担当保育士の予定を管理するとともに、成長療育支援システム「Hug」を使用し請求事務を効率化した。	9:00～の延長保育に対応するため、早出の勤務帯を新設し、職員の負担を軽減化する。
3	療育相談やつくしんぼ(保護者交流会)、あすなるの集い、就学のための勉強会を通じ、保護者に寄り添った相談・助言を行っている。	「就学のための勉強会」の対象を、昨年度より、こども支援センターあすなる利用保護者から生駒市内の事業所利用保護者に拡大した。	保護者からの事業所評価等のアンケートを分析し保護者のニーズに添った相談・援助を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自家用車で子どもを送迎する保護者が増えたため、法人内の駐車場が過密状態になることがあった。	近年、自家用車保有率や女性の普通免許取得率が増加したことに対し、法人敷地内駐車台数が対応できていない。	クラス開始・終了時間に15分の時間差を設けるとともに、建物内他施設と駐車場の使用についてルール化している。
2	施設が老朽化し、ハード面の経年劣化が進行している。	設備・備品・調度品・物品等に故障や破損が生じることがある。	故障や破損が生じると、当初予算や補正予算の中から、修理・修繕(応急含)を適時適切に行っている。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども支援センターあすなるメディカル		
○保護者評価実施期間	2026年1月24日		～ 2026年2月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2026年1月24日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の希望に応じて、担当保育士が子どもの所属する幼稚園・こども園・保育園を訪問し、子ども達の状況を共有し支援に関する助言を行っている。また、訪問前に保護者が各園に抱く心配や不安、不満を聞き取り、各園と共有するなどしている。 このことは、子ども達ひとり一人のインクルージョンにつながっている。	施設訪問後速やかに、保護者と面談し施設での支援内容を伝えられている。 また、各園に抱く保護者の心配や不安、不満を軽減するよう努めている。	「こども支援センターあすなる保育所等訪問支援事業」を活用し、子ども達が地域で適切に生活できるよう、インクルージョンを一層進めていきたい。
2	療育相談やつくしんぼ(保護者交流会)、あすなるの集い、就学のための勉強会を通じ、保護者に寄り添った相談・助言を行っている。	「就学のための勉強会」の対象を、昨年度より、こども支援センターあすなる利用保護者から生駒市内の事業所利用保護者に拡大した。	保護者からの事業所評価等のアンケートを分析し保護者のニーズに添った相談・援助を行っている。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども達の療育の様子が保護者に伝わりにくい。	生駒市所有の「セラビーいごまメディカル棟」の4階を使用し事業所としているが、保護者が送迎する廊下に保育室を見ることができない窓等がない構造となっている。	保育室を観察できる相談室(敷居に窓あり)から参観できる「窓から参観」の取組を充実させていく。 また、「今日の保育」の内容をコドモンでお知らせしていく。
2			
3			